



ゴーヤの苗をていねいに植える総社南幼稚園の園児たち

7月ごろには、緑のカーテンに

ゴーヤの植付け

昨年に引き続き市役所内の冷房効率を高めようと4月23日、ゴーヤの植え付けを行いました。

総社南幼稚園の園児36人がお手伝いで参加。市役所本庁舎の南側半分と東側へ合わせて約70本を植えました。

ゴーヤのつるをつたわせる高さ約9メートルのネットも設置。7月ごろには、緑のカーテンとなって、3階付近まで成長するのではと予想しています。



第0水門付近で整備状況を確認する委員ら。敷石や遊歩道、土塁上部の板塀などを見て回った

順調に整備が進む鬼ノ城

鬼城山整備委員会

4月15日、鬼ノ城の整備に指導・助言を行う鬼城山整備委員会が開かれ、整備状況の確認や今後の整備方針の協議を行いました。

委員6人は鬼ノ城を訪ね、西門の東側の高石垣と第0水門間の土塁の上面に復元した板塀や、城外側の敷石、見学者用の遊歩道など、担当者からの説明を受けながら、平成20年度に整備した場所を確認しました。

現地を視察した後、鬼ノ城を整備する10か年計画の最終年にあたる平成22年度までの整備計画を協議しました。

今年度からは、版築などの工法を用いて、西門と高石垣の間約20メートルの土塁を復元します。

家族連れらでにぎわう

吉備路れんげウィーク

「吉備路れんげウィーク」と名付けられた4月29日から5月6日までの8日間、多くの人々が春の吉備路を訪ね、満喫しました。

日中は紫のじゅうたんのように咲くレンゲが、夜はライトアップされた備中国分寺五重塔が、人々を魅了。イベントも吉備路れんげまつり、吉備再発見写真大会、幻想の響宴、和太鼓ライブと多彩でした。ライトアップされた五重塔前で繰り広げられる太鼓の演奏や神楽の舞を楽しむに訪れる人も多くいました。



→市役所通りの街路樹のユキノギが花をつけ、通りを歩く人の目を楽しませた



①和太鼓ライブで行われた太鼓を体験するワークショップ[5月5日]。②レンゲの花を摘んだり写真を撮ったりする人でにぎわったれんげ畑[吉備路れんげまつり、4月29日]。③備中国分寺を写生する子どもたち[5月3日]。④吉備路れんげウィークの期間中毎夜、ライトアップされた備中国分寺五重塔を背に、神楽や獅子舞、舞踊、太鼓が披露された[幻想の響宴、5月3日]

ミニフォト

サン直広場が5周年



来客に振舞う餅をつく関係者

5周年を迎えた「サン直広場ええところそうじゃ」では4月26日、買い物客へくじ引きによるプレゼントや、訪れた人たちにつき立ての餅を振舞い節目を祝いました。4月10日には利用者が90万人を突破し、ますますにぎわっています。

大智シモさん100歳



市長から祝福される大智さん

4月25日に大智シモさん(中原)が100歳の誕生日を迎えられ、県と市から記念品が贈られました。謡が好きだという大智さんは、お祝いに集まった人を前に「高砂」のさわりを張りのある声で謡い、大きな拍手に包まれていました。

鈴木好子さん100歳



市長から祝福される鈴木さん

4月16日に鈴木好子さん(井手)が100歳の誕生日を迎えられ、県と市から記念品が贈られました。90歳過ぎまで元気に花の栽培をしていた鈴木さん。長寿の秘訣は「早寝早起きと、仕事で体を動かしてきたこと」と話しました。

ブラジル人に生活安全指導



総社署の説明を聴く参加者

4月26日、ブラジル人を対象に生活安全指導講習会と定額給付金や雇用などの無料相談が総合福祉センターで開かれました。講習会には約50人が参加。総社署が行う日常の防犯や交通安全などの説明に、参加者は耳を傾けていました。

折り鶴に交通安全の思いを託す



折り鶴を配る総社高校生ら

春の交通安全県民運動の最終日の4月15日、総社高校家庭クラブ員らが折り鶴作戦を展開。交通安全の願いを込めて折った折り鶴を、市役所前の交差点で信号待ちをするドライバーに、「安全運転を！」と声を掛けながら配布しました。

総社駅前交番で開所式



開所を祝う人たち

JR総社駅南側に移転新築され、3月13日から業務を開始している総社駅前交番で4月22日、開所式が開かれました。同交番は警察官9人体制。警らや110番通報への対応、交通指導など24時間体制で業務にあたっています。